



中村俊定文庫
文庫 18
425



明和三年歲且

若松速

十四年
197

山流
山流

歳旦

とこれ花咲くより方々脚山
来し約念ふ名も秋津國
玉と言声と千鳥の加物みく

風月
風也
風御

舊年と暮るよと夜竹く

人の子死いし我者の若島月
下と血合の梅り

全
風月
風也

列身は天定り蝶乃むくる

其三

かきしや宴住ぐしは春の夜
栞はみより久々
櫻は姦女と雲初級合

全
風御
風月



正朔

酒よりい茶こそい蓋まを朝杖突
元日杖ハ 料むら見
松の枝より鈴の聲きふれ凡立テ天
百重
三夕
五尺

其二

能い事致才系水や滝の音
初と言字は 面をい空
東ハ鞠哉柿ノ交々くわくうふ
全
百重
三夕

其三

仕合や一重より二重 三乃朝
清山節り立依 食摘
哥此種小田此蛙も府ぬく
全
五尺
百重

聖節

い杯のけよ候れ淡せよ鶴の声
たるこも家より初餅あり列
系柳已ら未迄と掃除一夫
寒蟬
冬夕
東之

其二

大福やい井哉こゆく其八重櫃を
あぐりつと儼一 階上をい
杵此風野一山乃系声くくく
全
寒蟬
冬夕

其三

赤くくく庶蕪上湯れと日此出
初ハ餅もそのいと祖文此破唐
沖此波清れ穀更治 けい夫
全
東之
寒蟬

上日

むし乃とてや兒死居種枝煙
扇よりそよく東風乃初その
結立乃髪子胡蝶乃我ま天

風好
風兒
風天

其二

之朝人まこまきより若也梅の歌
先ッ一乃存ふまきまは海志
氷ふかろこれ下細とけとそま

全
風好
風兒

其三

南切了神まき梅の明るまき
三日しつりしん 雪は吹
公美く海言のまき梅枝小く

全
風天
風好

新年

ん地々やまきとて綿子とて始
正美續く 門乃麗
出死来と青成氷と若さそく

旗風

鳳且

兄才擲く中ノ子 弓始
杏子一と心成移と 妻色
五三日障子越三よも 暖尔

外雲

羊頭

人乃炎裏表る一と家乃乃色
梅定尔とと神代乃胎定
多ゆり心日和子美たそ初天

越後水原
器水

三朝

夷の川や三穂と又流す通す所
潤市、統子ゆらく年玉

全

緑我
風月

松吟一為年山川 功麓

四海一く 門の松風

全

泰靖
風月

布掛く壺の物より山折委

古丰以以 新く一交夷

全

洗馬
風月

いこくとまは美顔や梅の夷

穂し穂ふすのる若れ福茶

全

艸也
風月

若山や約と海土の 初穂

鷹も天个す一り 山

改且

湖舟
風月

梅い来々母の美顔とまの夷

万果の神へ入る帆や松の風

松風小洞へく言さ 御茶

同く人もまの心 御慶小

若山や美顔の穂の福茶

福茶松茶の接ふよと 此茶

若山や美顔の夷やまの夷

酒若子美茶の松や恵方棚

義節
嵐山
風車
風車
推敲
重信
月也
重勝

四海波貝かゝる者よは蘓の香
一箇中かゝる者先之江戶に夾
見笑くともは言ふ事多し銀の夾
相子とむる者も出し所代り夾
吟詠の海志を所是に夢とも我
初めや元暦も十年く日能歩
是後中かゝる者も月日能慶始
ふ中かゝる者も此の如く夾
元日や先言く事多し 松初
本朝の事り人のも 初日能
八十の松古松多し 玉の夾

鶏旦

能溪 拍之 鳳山 笑州 南窓 其白 起雲 風佐 風州 遊音 南湖

香子句く梅子初日能やとる言や
初日能出る者も更なり香子能
元日や初めもかゝる者も 知恵に海
若水や中かゝる者も 笑之也
初能産人かゝる者も 男山
初めや年かゝる者も 其も
今後子大い海に也 初日能
徳初子能輝くや 初日能
色や香子能は合する處に也
六根乃清又初也 居後能研

叔氣

實かゝる者も巳年能言ふ事多し

丹々 藍湖 桃水 羨桃 乘風 椰菴 其又 其山 小慍 松前 而后

橋三も麿斗目之こを朝乃妻
 新吹乃玉清一 浪世叟
 吾の代乃むのきりや初夢軒
 面白乃やま一 初鳥
小男 松齊
女 巨石
 金英
 可直

三元

白浪の花吹出スヤ 飾橋
 奥丸のこころのきりや初夢軒
 幸乃きり初夢軒 年一 此也
 初夢軒のきり一 年一 此也
十二文
 久磨
 風序
 藤雲
 義石
 藤糸
 路久
 鬼角

若水一 移る美敷や初夢軒
 急一 此處の初夢軒 此乃泉
 房輔
 五中

年甫

明乃鐘一 此乃初庭
 大乃や素因一 此乃初庭
 名古一 此乃初庭
 きり一 此乃初庭
 須弥山のきり一 此乃初庭
 初夢軒のきり一 此乃初庭
 年初や清れきり一 此乃初庭
 橋のきり一 此乃初庭
 初日一 此乃初庭
田嶋 嘯風
田嶋 鳴夕
田嶋 乙二
田嶋 野調
田嶋 芳臨
田嶋 松波
田嶋 加葉
田嶋 同瀬
田嶋 保水

初冬の去とと年此行る女
 橙やあけり花は飾りよの
 いさけしや法音さき三つ朝
 序盤の形中しつるや
 門堂やまも管束此 冒あり
 日れまう次つやこもれをる夾
 湯本 日中
 洪竹 丈白 友松 隣水 東鶴 白水

後新

浮城海志や神代此後飾り候
 月むれ蓋成明かし 初曆
 道草やまは海山の 盤抄
 半初れまよ蒼むや 後寿竹
 此れ幕圍くや梅の 式三番
 勇水 錦水 寛之 素英 梅都

隆慶子初日かやく 扇か
 杏竹の門子裁くや 礼扇
 阿多原一梅の咲乱るえお定
 鋪もなよく流し 初人
 定ぬる家の面皮と 着る始
 おく事や何れ風雅の 系用
 炭妻、まよひ音く 初詠子
 延日れた終しといん初みり
 相竹の波もあつるや法代り夾
 立つて来し連や思ふれ 起揚
 る乃額伸しや之朝の 初嗽
 めすより寛仁大度神代り夾
 紀秀 桺水 菊菜 洗我 幽里 桃泉 以灰 吞山 風卿 緑水 遊率 為竹

山や桂泉也ー 流さも

嵐気

松久枝の初見や家子三徳ヶ崎

交筈

天れ戸の四方は開けく徳代の夾

風吟

若くしての母れ板や

方山

まことのまも我孰と

蘭流

凡能く細よん波よそく

細長くさるふの夾や

竟志

履端

を嘆せ祖父とがしきや皮の夾

真志

塵出ーくうぢくまれ富士

箕子

長き日子さづらふらく波海ー天

博志

初来風よまも一言況やーり

箕子

成もまやくは母火れもや

真志

素衣如や市物やーる門の夾

博志

息も方へ向くは看板れ成

真志

天れ戸を穿く扇や明ヶれ夾

庭志

何る面ふり唐穂も禰成

真志

玉川のさしむがーくは徳代の夾

丹志

神くけり子れ年まれ成

真志

おげふ子やこゝ宗祇の二此子
破広美とこぬ左右の海成
真志 邑志

杏林声門娘く〜千代乃妻
戌吼〜ゆ 一乃暴乃袖
真志 景志

菱舞の代もつらつらのはは英
心もふふ乃隠る
真志 真志

大小吟
新暦下京く生まてエト十二ワ
門本や〜十のりの海之の腹
真志 運志

春興

氷水や波の車々 善道三
志也〜ゆの世に出て人々四ツセツ
潜り戸よ三がふや 猫の腹
〜〜〜尾よまきく柳か
ゆ〜〜は禰の産を白くする
襟えよ梅も別條り 今夜も
あ〜〜〜世に安んじる柳か
来雨よあ〜〜人清きる 柳か
永き日〜〜中地〜 系柳
露をりの漆嵐の 為柳柳
晴や梅もあ〜〜人鬼侶作
阿〜〜〜紙をさ〜〜人せり泥の更
赤雲 鳳山 白水 東鴨 隣水 巨石 噴風 乙二 鳩夕 芳晴 野調 松波

嶽のふもとに一箇口一は尖栗
身細よまらぬし一鞠やまらぬ
摘柿や事をも変りぬ 娘姑
幼志のうらむ白歯や梅乃也
うらむまきハ根乃中望や若葉摘
漬ぬぬ日ハ身よりあつく桂乃
身やうらむもよ二里 三里
比留子冠とさうり 雖阪の木
肩段一袖の口あふ 若葉乃
月乃流くまは柿の志さうり
娘子の心細りしきく志の志心
及出呼柿はよく一は山梅

加葉 柏之 竟志 勇水 松胤 可直 義郎 其白 緑哉 五尺 風丈 風兒

身細のよまらぬし谷^他まらぬ
摘柿や下戸まらぬし 男山
世好柿やよまらぬ柿亭もむれ
同く柿亭も摘し 若葉
雨乃うらむ身はまらぬ柿乃
和らまらぬ柿亭もく 柿奇
うらむも柿亭もく 柿奇
ん柿亭も

守歳

風好 月也 三夕 風御 風竹 推設 風月 寒蟬 渡首 荒毛

板本更成除くてもよ此市女笠
濡ら潮乃成布も然らん年此家
急をよ介信人んあまは門

流羅中瀬と脚走此後り 初
 志連州およそ西振しとて此處
 通五中玉此盛 孫九文
 世ハ遠如き此浦原心也とて此書
 宮妻よらと第一益 日も言ふ
 能イ事此橋く通連年ト云
 四海波をゆゆと云 天物日
 梓の敷きんく物事一年此候
 明くふ遠吹細一 自乃書
 敏也くはるくも代乃君原
 此れ戸れまの能やまのめ凡
 言事よらと滑きり操て書てたり

緑我 三夕 五尺 表清 旗風 升雲 推散 重信 重勝 龍溪 百量 東之

孫信一て書ゆや 一とて此書
 先法のまよははくまくと書ふぬ
 子ト書乃楫とてぬまて系刀系
 鬼や外流くも此 滝乃音
 飯糰のさふたたえ 中年の書
 中まくとと書くも物事との板
 厨と此子代と書くも物事此候
 才とて此れも物事や一年此市
 一時の能も惜一 中年此書
 元り書り此物事とて一や去海日
 汲く心人ト同ん年此候
 笑之き兆合や 極月山

吟夕 柏之 幽里 吞山 桃泉 以友 緑水 鳳山 笑州 南窓 洗馬 錦水

かきく月やおきよ 言れ者
程くれ野原のや 年れ市
あきり尾もたれや 此は布
さの尾の吾妻かき 若やあき 糸
大さるるうぬい 年めこれ
兼 聖子玉れ声なり 大 晦日
おぼと吹かて 海も青 年れ市
聲や 妻 霞 津さ 朝 北 梅
大さるや 皆世の中 北 梅
清切にや け 徒然も 常 季よ
山海の志 故 柏い 久 采 若 成
大吉や 梅も 梅 系と 忘

寛之
素英
梅都
和秀
洗我
探水
菊宗
灰松
文白
淇竹
保水
其白

かきく月やおきよ 言れ者
兼 聖子玉れ声なり 大 晦日
おぼと吹かて 海も青 年れ市
聲や 妻 霞 津さ 朝 北 梅
大さるや 皆世の中 北 梅
清切にや け 徒然も 常 季よ
山海の志 故 柏い 久 采 若 成
大吉や 梅も 梅 系と 忘
かきく月やおきよ 言れ者
兼 聖子玉れ声なり 大 晦日
おぼと吹かて 海も青 年れ市
聲や 妻 霞 津さ 朝 北 梅
大さるや 皆世の中 北 梅
清切にや け 徒然も 常 季よ
山海の志 故 柏い 久 采 若 成
大吉や 梅も 梅 系と 忘

金英
遊翠
鬼角
為竹
器水
雅麗
衣簷
五中
噴風
芳臨
乙二
野調

ふもこれ討く苦の如く作是ハ
来又是くぬもの歌し年れ昔
ねまの如目やま成法情
巨寺やなるく如命一重
債のかりて越エん年ら坂
情傳てむのま刀之 年花
李達くまの如く 曾飾り
組板れ修る年書れ 尾替小
これ柳の流ま牛や 大漆
月香もやう法より年ら坂
程く小海成まもやまの市
十ふれ杭子越エ安一ふれ仲

鳩夕
松波
加葉
笠子
博志
庭志
丹志
邑志
景志
菊志
真志
西后

東海海邊

元禊

海邊れまま山やと一此市
のま肩の袖面ふの 古れむ
野まけし山成ゆのま此園
柳まて極まぬの まつ海か
藤匠志の藤うとれてやま書山
何もかもま一と廊や年三
のまも裁もうくねく年の居
否こくも浪りらるや年と
大黒一同一歌る 蟻掃
舞貝成けく人まもやま酒
月入事成神くまもむや 曆賣

可直
巨石
洞水
丹々
藍湖
乗風
龍竜
羨桃
其又
其山
小蝶
方山

むも愛も抱くものも有るもの市
なまなましく暮るも有るもの市
牛車道の轍もつらむもの市
老後の涙もつらむもの市
酒の酔もつらむもの市
人は是のつらむもの市
友人のつらむもの市
志のつらむもの市
志望せ祖父もつらむもの市
志望のつらむもの市

蘭流 義石 又磨 東鴨 白水 曾水 松胤 房輔 藤雲 隣水

神代もつらむもの市

竟志

ひもや惜ぶもの市

南湖

歳暮

ひもや惜ぶもの市
天下皆在るもの市
世に在るもの市
指折れば梅も安きもの市
奇来れり初年地浦波年の波
魚も神廟の魚も安きもの市
爐拂や笑顔定まるもの市
右に通る清風や新年に吹くれ
年の物も安きもの市
つらむもの市

州也 義命 風車 風序 風州 風御 風好 風夫 起雲 風見

去年の如く北むくはねの二年月也
さいそくを道す子讀て風言成
福も内外に枚終しやううな
年の彫や強中出也 海鏡
とまの言風いさしな 茶臼枚
道すの鏡子道いさく言言や
とま終の言風いさしな 年の市

大尾

月七日の言もや年し終し山極

月也 風佐 風山 風郎 風吟 遊系 風卿

風月

河を既し三不本子をる候也

感意多し事此事なり 至今也

歌工

魚船

大
沼
弥
市

